

進化経済学会ニューズレター

No.46 June 2019

進化経済学会事務局

〒171-8501

東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学経済学部

荒川章義

03-3985-2345

a-arakawa@rikkyo.ac.jp



撮影：西 洋（初夏の奥大和）

+++++

第 23 回進化経済学会名古屋大会を終えて

2018 年度若手セミナー開催報告

第 23 回進化経済学会名古屋大会理事会議事録

第 23 回進化経済学会名古屋大会総会議事録

2018 年度部会報告

進化経済学会仙台大会（東北大学）・オータムコンファレンスのご案内

会員異動

+++++

第 23 回進化経済学会名古屋大会を終えて

第 23 回名古屋大会実行委員長
徳丸宜穂（名古屋工業大学）

進化経済学会の第 23 回名古屋大会は、2019 年 3 月 16-17 日に名古屋工業大学で開催されました。「技術・産業の進化と資本主義のゆくえ」を大会テーマとして設定したのは、技術と社会経済の共進化関係を分析・考察することが進化経済学の一大トピックだと考えたからです。名古屋での開催は、東日本大震災の直後、2011 年 3 月に開催された名古屋大学での年次大会以来となりました。寒さが残る 2 日間でしたが、幸い 130 名ほどの多くの会員の参加を得て盛大に開催することができました。2 日間で 21 のパラレルセッション、6 つのポスター発表、3 つの全体講演が行われました。ご来場いただき盛り上げてくださったことにお礼申し上げます。

1 日目には AFEE 前会長の Charles Whalen 氏による全体講演が行われ、主にアメリカにおけるポストケインズ派経済学が制度経済学としてどのような意味を持っているのかという問題が検討されました。折しも金融危機以降、ミンスキーによる金融不安定性論が様々に注目されるだけに、現実の制度刷新を考える上でも非常に重要な問題を含んでいると筆者には思われました。午後には、大会テーマに非常に関連する企画セッションとして「IoT 時代の制度構築」が開催されました。筆者は前半のセッションにしか出られていませんが、雇用がどれくらい減るのか？どうしたらいいのか？という大雑把な議論ではなく、現場レベルでの技術導入・展開を把握した上で問題と可能性とが冷静に論じられた点に、進化経済学が探求すべき方向性と、現実理解を深める可能性の一つが示されたと思います。

今回の新機軸として、懇親会前に同じ会場でポスターセッションを開催することにしました。残念ながらポスター数自体は予想よりも少なかったですが、幸い、懇親会会場に集まった多くの会員が参加し、活発な質疑が行われました。口頭発表よりもポスター発表の方が適した発表内容である場合もありますし、また研究のフェーズによってはポスター発表から得られる示唆がより有益な場合もありうると思います。来年度以降も引き続き、ポスターセッションの活性化を試みていただけたら幸いです。

2 日目には都留康会員（一橋大学）の著書『製品アーキテクチャと人材マネジメント』に対する学会賞授与式に引き続き、受賞講演が行われました。世界的な製品開発拠点に変容している東アジア 3 カ国の製品開発組織とエンジニアのマネジメントについて、ミクロ的・実証的に比較分析を行った上記の労作が簡潔に解説されました。またそれに引き続き、恒例となっている会長講演「進化経済学はどこへ向かうのか？」が西部忠会長（専修大学）によって行われ、これまでの体系化の試みなどを踏まえながら、進化経済学が進むべき方向性を大きく展望されました。筆者にとっては、これらの両講演を考え合わせるならば、新しい分析技法の利用をいとわない高水準の実証研究と理論的革新とが、どのように絡み合いながら進められるべきかという問題が提起されていると思われました。

今大会は大変幸いにも、名古屋の大学に在職する藤田真哉会員（名古屋大学）、藤田菜々子会員（名古屋市立大学）、吉井哲会員（名古屋商科大学）と、文字通りの協働によって運営することができました。三氏の協働のスピリットにお礼申し上げたいと思います。

進化経済学会若手セミナー開催報告

瀬尾 崇（金沢大学）

2018年度の若手セミナーは、2019年3月17日（日）に年次大会の2日目に合わせて、1セッションとして開催された。大会期間中ということもあって、昨年度に続いて多くの参加者を見込んでいたが、横並びのセッションの方が集客力があつたのか、非常に少人数での開催となった。せっかく運営にご協力してくださったJAISTの小林重人会員、上越教育大の吉田昌幸会員には、大変申し訳ない結果となり、お詫び申し上げます。ただ、開始ギリギリになって、急遽、大会運営に協力して下さっていた大学院生の方々が参加して下さることになり、進化経済学に少なからず関心のあると思われる若手研究者の卵の方々にご参加いただいたことで、進化経済学および進化経済学会のアナウンスにもつながったように思われる。

2018年度の若手セミナーのテーマは、ゲーミングシミュレーションを講義の1コマとしてアクティブ・ラーニング風実践する場合の具体的な方法論、ということで企画した。その一例として、先の2名の会員がすでに実際に実践されているレゴブロックを使ったゲーミングシミュレーションを再現していただいた。私自身の大学の講義でも、お2人にゲストスピーカーとして来ていただき、200名余りの学生に対して実施していただいた授業と同じ内容であったが、大学院生や進化経済学に馴染みのある参加者だったということもあり、最後の振り返りや気づきに関する意見交換は、非常に有意義なものであった。急遽、参加して下さったのにも関わらず、大学院生も主体的に参加し、楽しんでくれたようで、結果として、若手セミナーは開始直前のドタバタを埋め合わせて余りある成果があつたように思われる。小林・吉田両会員および参加して下さった学生さんに、いま一度感謝申し上げるしだいである。



現在の若手セミナー運営担当者になってから、すでに数年が経過し、これまで、「英語論文の執筆のコツ」、「進化経済学とは何かを若手会員で考える」など、試行錯誤しながら企画してきたが、今回の若手セミナーでは、大学の講義で進化経済学を講義するにあたって、どのような方法がありうるか、その具体例を共有するところまで到達した。次回の2019年度は、私が過年度生向け旧カ

リ科目を使って進化経済学を 15 回講義する試行実験を行い，その報告を叩き台として，半期 2 単位の 1 科目として 15 回分の進化経済学に関する講義の実施方法について意見交換する企画を予定している。ぜひ，多くの会員に参加していただき，ツッコミを入れていただきたい。

第 23 回進化経済学会名古屋大会理事会議事録

日時：2019 年 3 月 16 日（土）11:50~12:50

場所：名古屋工業大学（御器所地区）4 号館 2 階会議室 2

出席者：西部忠（会長）、磯谷明德（副会長）、徳丸宜穂（大会実行委員長）、有賀裕二、池田毅、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、黒瀬一弘、澤邊紀生、塩沢由典、瀬尾崇、出口弘、中原隆幸、鍋島直樹、西洋、橋本敬、服部茂幸、原田裕治、廣瀬弘毅（監査）、福留和彦（会計）、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）

欠席（委任状あり）：青山秀明、浅田統一郎

欠席（委任状なし）：吉地望（監査）、佐々木啓明

1. 報告

1.1 西部忠会長挨拶

西部会長より名古屋大会開催に際して挨拶があった。

1.2 徳丸宜穂名古屋大会実行委員長より大会開催状況報告

徳丸名古屋大会実行委員長より、開催状況報告があった。

1.3 会勢報告

荒川事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった。

1.4 日本経済学会連合報告

植村担当理事・池田担当理事より資料が回覧に供された。

1.5 各部会報告

ニューズレターに掲載予定のため省略。

1.6 若手セミナー開催報告

瀬尾担当理事より大会 2 日目に若手セミナーが開催予定であるとの報告があった。

1.7 次年度開催校東北大学黒瀬一弘理事より挨拶

次年度開催校東北大学の黒瀬理事より、オータムコンファレンスを 9 月 12 日（木）に高山市民文化会館で、本大会を 2020 年 3 月 21 - 22 日か、もしくは 2020 年 3 月 28 - 29 日のいずれかで東北大学で開催予定であることが報告された。

1.8 オータムコンファレンス開催日時と会場について

次年度のオータムコンファレンスは、5th Biennial RAMICS International Congress in Japan への協賛のため、9 月 12 日（木）に飛騨高山の高山文化会館で開催予定であることが確認された。

2. 議題

2.1 入退会について

荒川担当理事より、入会希望者及び退会者の提案がなされ、提案通り了承された。

2.2 2017 年度会計決算報告

福留会計担当理事が 2017 年度の会計決算報告を行い、了承された。

2.3 2018 年度決算報告

福留会計担当理事が 2018 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された。

2.4 2019 年度予算について

福留会計担当理事が 2019 年度の予算案について説明を行い、了承された。

2.5 進化経済学会賞選考委員会委員長ならびに委員の交代について

江頭進化経済学会賞選考委員長より、次期委員長に服部茂幸理事、次期委員に青山秀明理事に代わり植村博恭理事が就くことが提案され、了承された。

2.6 第 4 回学会賞の募集要項について

服部次期進化経済学会賞選考委員長より、第 4 回学会賞の募集要項が提案され、了承された。

2.7 進化経済学会奨励賞検討委員会の設置について

荒川事務局長より、主に若手研究者を対象とした進化経済学会奨励賞の設置を検討する検討委員会を設置すること、ならびにこれを会長、副会長、学会賞選考委員長、EIER 担当理事、事務局担当理事により構成することが提案され、了承された。

2.8 進化経済学会通貨 JAFEE 検討委員会の設置について

荒川事務局長より進化経済学会通貨の開設を検討する検討委員会を設置すること、ならびにこれを会長、副会長、EIER 担当理事、事務局担当理事、会長の指名する会員数名により構成することが提案され、了承された。

2.9 フェロー規定の改正について

荒川事務局長より進化経済学会フェロー規程の第 2 条、「フェローは終身であり」を「フェローは会員である限り」に改正することが提案され、この改正案を即日施行することとともに了承された。

3. その他

橋本理事より、若手研究者の奨励のためには、ポスターセッションをより充実させる必要があるのではないか、また報告を行う会員が提出するフルペーパーをサイトに残したほうが良いのではないかと意見が出され、継続的に協議することとした。

第 23 回進化経済学会名古屋大会総会議事録

日時：2019 年 3 月 17 日（日）12:30~13:30

場所：名古屋工業大学 4 号館 1 階ホール

1. 議長の選出

平野泰朗会員が議長に選出された。

2. 西部忠会長挨拶

西部会長より名古屋大会開催にあたって挨拶があった。

3. 徳丸宜穂大会実行委員長より開催状況報告

徳丸大会実行委員長より開催状況報告があった。

4. 若手セミナー開催報告

瀬尾担当理事より大会 2 日目午後に若手セミナーが開催予定である旨報告があった。

5. 会勢報告

荒川事務局担当理事より会勢報告があった。

6. 2017 年度決算報告ならびに監査報告

福留会計担当理事より 2017 年度決算報告が行われ、吉地監事・廣瀬監事より間違いがない旨報告が行われた。

7. 2018 年度決算中間報告

福留会計担当理事より 2018 年度決算の中間報告が行われた。

8. 2019 年度予算について

福留会計担当理事より 2019 年度予算について提案がなされ、了承された。

9. 2018 年度学会賞の発表と記念品贈呈式

2018 年度の学会賞として、都留康会員の『製品アーキテクチャと人材マネジメント中国・韓国との比較からみた日本』（岩波書店、2018 年）が選出されたことが発表され、記念品の楯と賞金の贈呈式が行われた。

10. 次年度開催校東北大学黒瀬一弘理事より挨拶

次年度開催校東北大学の黒瀬理事より、オータムコンファレンスを 9 月 12 日（木）に高山市民文化会館で、本大会を 2020 年 3 月 21 - 22 日か、もしくは 2020 年 3 月 28 - 29 日のいずれかで東北大学で開催予定であることが報告された。

文責：事務局担当理事荒川章義

【資料】

進化経済学会会勢

2018年9月21日時点

進化経済学会会勢状況		
個人会員	357	(入会 2 退会 17 休会 4 含む)
個人終身正会員	11	
院生会員	45	(入会 2 休会 3 退会 2 含む)
賛助会員/団体	0	(退会 1 含む)
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	1	
416		

2019年3月16日時点

進化経済学会会勢状況		
個人会員	362	(入会 3 退会 1 休会 4 含む)
個人終身正会員	10	
院生会員	44	(入会 2 退会 1 休会含む)
賛助会員/団体	0	
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	1	
419		

進化経済学会フェロー規定

制定：2015年3月21日 理事会

改正：2019年3月16日 理事会

第1条 本学会は、本学会会則第2条（学会の目的）にそつた理論および実証研究、学会運営、普及・教育活動において顕著な貢献をおこなつた会員を理事会の決定により、フェロー（JAFEE Fellow）として表彰する。

第2条 フェローは会員である限り、理事でない場合でも理事会に出席して学会活動に対して参考意見を述べることができる。

第3条 フェロー候補者の推薦をおこなうことができるのは理事2名で、推薦理由を記した推薦書を会長に提出してこれをおこなう。

第4条 候補者の推薦を受けた会長は、推薦者以外の理事3名からなる選考委員会を設置し、フェロー候補者としての適否を検討させる。

第5条 選考委員会が第3条で推薦された会員をフェロー候補者として適格と判断した場合、その会員を理事会にフェロー候補者として推挙する。理事会はそれについて審議をおこなつてフェローとしての表彰を決定する。

第6条 理事会はフェロー表彰の該当者に通知をおこない、学会のホームページに公示する。

第7条 本規程の改廃は理事会の決議によつて行ふ。

付則

1. 本規程は2015年3月21日から施行する。
2. 改正規定は2019年3月16日から施行する。

第4回進化経済学会学会賞応募要項

2019年3月17日

進化経済学会学会賞選考委員会

服部茂幸（委員長）、浅田統一郎、植村博恭、江頭進

第4回進化経済学会学会賞の選考対象となる会員の著作を以下の要項で募集します。この賞の選考についての詳細は、学会ホームページに掲載されている「選考にかんする細則」によることとされていますので、応募の際にはそれをご参照ください。多数の応募をお待ちします。

1. 選考対象

募集締め切り時を基準に過去3年以内（今回の場合、2016年5月1日－2019年4月30日）に公表された会員の著作（論文、著書）。

なお、上記の期間内に *Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された上記の応募資格をみたま論文、および昨年度応募し今年度も応募期間に合致する著作は自動的に選考対象となります。

2. 応募方法

自薦または他薦による。応募者または推薦者は、推薦対象の著作2部（コピーあるいは電子ファイルも可）を「推薦理由書」とともに選考委員会に送付する。

「推薦理由書」は、学会のホームページからもダウンロードできます。

3. 受付期間と応募宛先

2019年4月1日から4月30日（締切日消印有効）

電子応募もできますが、必ず受け取りの確認を得てください。

〒602-8580 京都府京都市上京区今出川烏丸東入 同志社大学商学部
服部茂幸研究室内「進化経済学会学会賞選考委員会」宛て
あるいは shattori@mail.doshisha.ac.jp 宛て

4. 公表・授賞

2019年のオータムコンファレンスで公表し、翌年3月の会員総会で賞状と副賞（賞金）を与える。

進化経済学会学会賞推薦理由書

年 月 日 受付 受付番号

推薦者 (連絡メアド)	
推薦著作*	公表形態 (), 公表時期 (年 月)
著者 (連絡メアド)*	推薦著作公表時会員籍があったかどうか (有・無) **
推薦理由	
推薦著作の評価 にあたって留意 すべき点	

* 対象となる著作の要件は「学会賞規程」および「選考に関する細則」を参照。

**この情報は、記載を省略してかまいません。

進化経済学会 第23回名古屋大会 総会
会計関係報告

2019年3月16日(土) 名古屋工業大学
会計担当理事・福留和彦

1. 2017年度(平成29年度)収支計算報告等

資料1「監査済2017年度収支計算書決算報告」参照

2. 2018年度収支計算中間報告(4/1/2018~2/28/2019)「◆」印は3/31見込を参照

資料2「2018年度収支計算書中間報告」参照

2-1. 収入側

会費収入状況 3,442,000円(2/28時点)

大会収入◆：オータム150,000円, 本大会700,000円(2018年度予算通り)

2-2. 支出側

大会費◆

英文誌編集刊行費(シュプリンガー・ジャパン)

通信費(会計監査書類の郵送代)◆

事務用品費(楯代)◆

謝金(サーバー代等)

送金手数料(出金口座からの各種振込, 入金口座から出金口座への移金)◆

事務委託費(株)国際文献社への支払)◆

部会補助費(2件:「制度と統治」部会, 観光学研究部会)

経済学会連合会費

学会賞◆

次期繰越金(2018年度繰越金)◆ 4,843,553円

*参考:2017年度繰越金 4,560,006円

2-3. 貸借対照表

3. 2019年度予算

資料3「進化経済学会2019年度予算」参照

3-1. 収入

会員収入:2018年度見込(一部2017年度実績)に基づいているが, 会勢拡大による会費収入の増額が求められる

大会収入:2018年度名古屋大会の結果が出ていないが, 前年度(2017年度九州大会)実績を踏まえて150,000円減額(内訳:オータム-50,000円, 本大会-100,000万円)

3-2. 支出

大会費:2018年度と同額を維持

英文誌刊行費:シュプリンガーの2018年度請求額に基づき現状維持

通信費 : 2018 年度と同額を維持
事務用品費 : 2018 年度と同額を維持
謝 金 : 2018 年度と同額を維持
送金手数料 : 2018 年度と同額を維持
業務委託費 : 国際文献社の 2018 年度請求額に基づき現状維持
部会補助費 : 2018 年度と同額を維持 (若手セミナー分含む)
学会賞 : 2018 年度と同額を維持
経済学会連合会費および予備費は 2017 年度と同額を維持
※資料 4「繰越金推移 2005～2018 年度 (予想)」
会計担当理事引継ぎ事項: 繰越金の 400 万円台の維持

進化経済学会
2017年度 収支計算書決算報告
(2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位:円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減
会費	3,222,000	3,482,000	260,000	大会費	1,100,000	1,335,547	235,547
	3,010,000	3,000,000		オーストラリア大会	400,000	355,317	-44,683
		190,000		本大会	700,000	890,230	190,230
		50,000		英文送達印刷代	2,200,000	2,160,000	-40,000
		110,000		通信費	20,000	1,080	-18,920
		25,000		交通費	0	0	0
		2,000		事務用品費	100,000	17,720	-82,280
		50,000		事務用品費	20,000	16,266	-3,734
		50,000		謝金	20,000	8,492	-11,508
		50,000		送金手数料	20,000	0	0
		50,000		年会費	0	0	0
		600,000		会議費	0	0	0
		100,000		印刷費	0	0	0
		500,000		事務委託費	650,000	575,592	-74,408
		0		国際交流費	0	0	0
		0		CD販売	0	0	0
		0		11 期会補助費	150,000	64,100	-85,900
		0		0 経済学会連合会費	35,000	35,000	0
		0		0 学生会	100,000	50,000	-50,000
		14,640		-14,640			0
		2,240		0			0
				準備費(役員選挙費用)	100,000	79,230	-20,770
				当期支出合計	4,495,000	4,343,027	-151,973
				C 繰越金	4,092,022	4,590,006	507,104
				総計	8,547,902	8,903,033	355,131

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2018年 8月 29日

進化経済学会監査委員

古地 望

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2018年 9月 2日

進化経済学会監査委員

廣瀬 弘毅

貸借対照表
(2018年3月31日現在)

2018年8月20日

(単位:円)

借方	貸方
流動資産	正流動負債
現金	前受金
預金	30,000
普通預金	697,581
郵便振替	3,395,972
未収金	
	496,453 正正味財産
	次期繰越金
	前期繰越金
	当期繰越金
	当期収支差額
合計	4,590,006 合計

財産目録
(2018年3月31日現在)

(単位:円)

科目	管理部門	金額
流動資産		
現金		
預金	会計担当理事	697,581
	学会事務局(国際文庫)	3,395,972
未収金	第22回大会残金	496,453
資産合計		4,590,006

(負債および正味財産の部)

(単位:円)

科目	適用	金額
流動負債		
前受金		30,000
負債合計		30,000
正味財産合計		
	前期繰越金	4,709,022
	当期収支差額	-149,016
負債及び正味財産合計		4,590,006

進化経済学会
2018年度 収支計算書中間報告
(2018年4月1日～2019年2月29日)

貸借対照表
(2019年2月28日現在)

2019年2月17日

種別	平集家	決算額	増減	支出	平集家	決算額	増減
収入							
空費	3,102,000	3,442,000	340,000	大会費	1,100,000	0	-1,100,000
				オーガム・コンプレックス	400,000	0	-400,000
				本大会	700,000	0	-700,000
正会員当該年度	2,910,000	2,790,000	(120,000)	英文誌編集代行費	2,200,000	2,160,000	(40,000)
正会員退任年度	340,000	340,000	0	通信費	20,000	1,590	-18,410
理事正会員当該年度	50,000	190,000	140,000	交通費	0	0	0
理事正会員退任年度	90,000	99,000	9,000	雑費	60,000	0	-60,000
際正会員退任年度	36,000	36,000	0	印刷費	20,000	10,800	-9,200
理事員	2,000	2,000	0	送料手配料	20,000	0	-20,000
賛助会費当該年度	50,000	50,000	0	雑費	10,800	7,124	-12,276
賛助会費退任年度	0	0	0	貸借対照表	20,000	0	20,000
その他(借入金等)	30,000	30,000	0	貸借対照表	0	0	0
大会収入	690,000	0	(690,000)	印刷費	0	0	0
				事務委託費	650,000	571,011	-78,989
オーガム・コンプレックス	150,000	0	(150,000)	国際交流費	0	0	0
本大会	700,000	0	(700,000)	経済学学会連合会費	150,000	40,990	-109,010
CD販売	0	0	0	学生会費	35,000	35,000	0
社費	0	9	9		100,000	0	-100,000
寄付金	0	0	0	平集費	100,000	0	-100,000
書籍券卸代	0	0	0	当集支出合計	4,475,000	2,823,015	-1,651,985
定額購読料	0	0	0	雑益	4,037,006	5,176,537	1,139,531
利用料	0	1,637	1,637		8,512,006	8,003,652	(508,354)
当集収入合計	3,852,000	3,443,566	(408,434)	当集支出合計	4,475,000	2,823,015	-1,651,985
前期繰越金	4,580,006	4,580,006	0	雑益	4,037,006	5,176,537	1,139,531
前期末残高	8,512,006	8,003,652	(508,354)		8,512,006	8,003,652	(508,354)

2018年度 収支計算書中間報告(2018年3月31日時点の比較)
(2018年4月1日～2019年2月29日)

種別	平集家	決算額	増減	支出	平集家	決算額	増減
収入							
空費	3,102,000	3,442,000	340,000	大会費	1,100,000	1,100,000	0
				オーガム・コンプレックス	400,000	400,000	0
				本大会	700,000	700,000	0
正会員当該年度	2,910,000	2,790,000	(120,000)	英文誌編集代行費	2,200,000	2,160,000	(40,000)
正会員退任年度	340,000	340,000	0	通信費	20,000	1,590	-18,410
理事正会員当該年度	50,000	150,000	100,000	交通費	0	0	0
理事正会員退任年度	90,000	99,000	9,000	雑費	60,000	0	-60,000
際正会員退任年度	36,000	36,000	0	印刷費	20,000	10,800	-9,200
理事員	2,000	2,000	0	送料手配料	20,000	0	-20,000
賛助会費当該年度	50,000	50,000	0	雑費	10,800	7,124	-12,276
賛助会費退任年度	0	0	0	貸借対照表	20,000	0	20,000
その他(借入金等)	30,000	30,000	0	貸借対照表	0	0	0
大会収入	690,000	0	(690,000)	印刷費	0	0	0
				事務委託費	650,000	594,011	-55,989
オーガム・コンプレックス	150,000	0	(150,000)	国際交流費	0	0	0
本大会	700,000	0	(700,000)	経済学学会連合会費	150,000	40,990	-109,010
CD販売	0	0	0	学生会費	35,000	35,000	0
社費	0	9	9		100,000	50,000	-50,000
寄付金	0	0	0				
書籍券卸代	0	0	0				
定額購読料	0	0	0				
利用料	0	1,637	1,637				
当集収入合計	3,852,000	4,293,646	341,646	当集支出合計	4,475,000	4,010,099	-464,901
前期繰越金	4,580,006	4,580,006	0	雑益	4,037,006	4,843,543	806,547
前期末残高	8,512,006	8,873,652	341,646		8,512,006	8,853,642	341,646

【資料 2】

種別	借方	貸方
流動負債		
現金	0	60,000
預金	0	0
普通預金	399,529	0
郵便振替	3,827,108	0
振込金	0	0
	1,100,000	1,100,000
	0	0
	0	0
合計	5,226,637	5,226,637

貸借対照表
(2019年2月28日現在)

種別	借方	貸方
流動資産		
現金	0	60,000
預金	0	0
普通預金	399,529	0
郵便振替	3,827,108	0
振込金	0	0
	1,100,000	1,100,000
合計	5,226,637	5,226,637

種別	借方	貸方
流動負債		
現金	0	60,000
預金	0	0
普通預金	399,529	0
郵便振替	3,827,108	0
振込金	0	0
	1,100,000	1,100,000
合計	5,226,637	5,226,637

【資料 3】

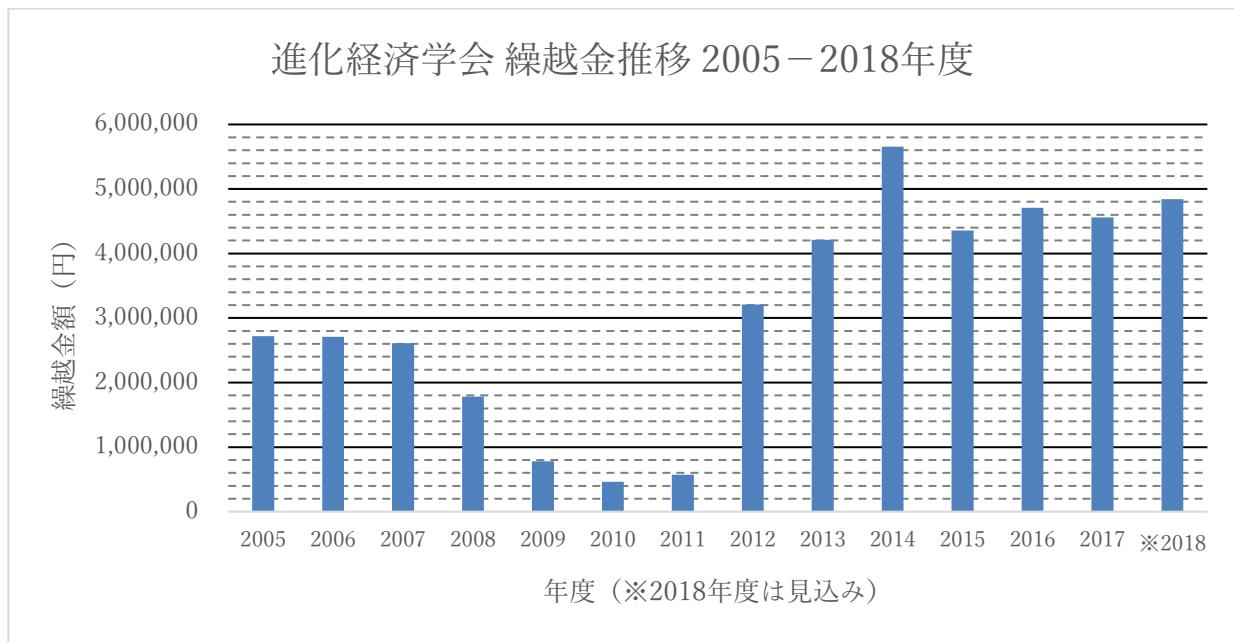
2019年3月16日

進化経済学会 2019年度予算
(2019年4月1日 ~ 2020年3月31日)

(単位:円)

収入予算		予算額	支出予算		予算額
2018年度からの繰越(見込)		4,843,553	大会費		1,100,000
			(内訳)		
			オータムコンファレンス		400,000
			本大会		700,000
			英文誌編集発行費		2,200,000
会費		2,937,000			
(内訳)					
正会員 (2018年度見込)		2,790,000	通信費		20,000
終身正会員(2017年度実績)		50,000	事務用品費		80,000
院生会員 (2018年度見込)		95,000	謝金		20,000
準会員 (同上)		2,000	送金手数料		20,000
賛助会員 (同上)		0	事務委託費		650,000
大会収入		700,000			
(内訳)			部会補助費		150,000
オータムコンファレンス		100,000	学会賞		100,000
本大会		600,000	経済学会連合会費		35,000
(2017年度実績)					
書籍売却代(2018年度見込)		0	予備費		100,000
定期購読料(同上)		0	小計		4,475,000
			2020年度への繰越		4,005,553
総計		8,480,553	総計		8,480,553

【資料 4】



2018 年度部会報告

■「現代日本の経済制度」部会報告

(第1回研究会)

日時：2018年7月28日(日) 13-17時

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス

テーマ：制度の政治経済学のパースペクティヴ

- ・ 磯谷明德(九州大学)「制度主義的転回」後の制度経済学：新たな展開の可能性
- ・ 藤田真哉(名古屋大学)「マークアップ：その変化の影響と構成要因」
- ・ 遠山弘徳(静岡大学)「資本主義の多様性に関する実証分析：イノベーションの制度的基礎を中心に」
- ・ 江口友朗(立命館大学)「競合的パラダイム論」から見た制度アプローチの展開とその理論的射程に関する一考察」
- ・ ディスカッション司会(宮本光晴：専修大学)

(第2回研究会)

日時：2018年11月17日(土) 13:00~17:30

場所：関西大学梅田キャンパス 702号室

テーマ：『市民社会と民主主義・レギュレーション・アプローチ』をめぐって

- ・ 田原慎二(千葉商科大学)「産業構造の変化とGVC(グローバルバリューチェーン)：付加価値貿易の観点から」
- ・ 山田鋭夫(名古屋大学)「内田義彦の問い：交換的平等と人間的平等」
- ・ 藤田菜々子(名古屋市立大学)「市民社会と福祉社会：「日本型」の歴史的・学史的意義」
- ・ 原田裕治(摂南大学)「レギュレーション・アプローチと市民社会論：信頼・制度・資本主義の多様性」
- ・ 植村博恭(横浜国立大学)「『市民社会と民主主義』のリベラル・アワー：市民社会概念の豊富化・戦後経済学の遺産・市民社会民主主義の制度派経済学にむけて」
- ・ コメント(植村邦彦：関西大学, 宇仁宏幸：京都大学, 小野寺研太：東京女子大学)

(第3回研究会)

日時：2019年2月22日(金) 13:00~17:30

場所：九州大学・伊都キャンパス：イースト2号館6階E-617室(カンファレンス・ルーム)

- ・ 原田裕治(摂南大学)・遠山弘徳(静岡大学)「資本主義の多様性と制度・主体リンケージ」(コメント, 藤田真哉：名古屋大学)
- ・ 細杏菜(名古屋大学大学院)「ターゲットリターン・プライシングを伴うカレッキアン・モデルにおける需要形成と金融政策」(コメント, 藪田竜之介：佐賀大学)
- ・ 王佳(九州大学)「中国の住宅価格にバブルは存在するか：省別パネルデータを用いた実証分析」(コメント, 遠山弘徳：静岡大学)

- ・ 植村博恭（横浜国立大学）「日本における制度派ケインズ経済学の知的遺産：制度認識と市民的観点の継承と新たな発展」（コメント，磯谷明德：九州大学，宋磊，北京大学）

文責：西洋（阪南大学）

■「制度と統治」部会報告

1. 第1回 進化経済学会・「制度と統治」部会

（「近代と統治」研究会との共催）

日時：2018年8月4日（土曜日）13:00～17:00

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス・第1セミナー室

テーマ：「渡辺恭彦著『廣松渉の思想』合評会」

プログラム：

渡辺恭彦著『廣松渉の思想－内在のダイナミズム－』みすず書房，2018年。

内容紹介： 渡辺恭彦（奈良女子大学非常勤講師）

コメンテーター：

- ・ 百木 漠（立命館大学・研究員）
- ・ 岩熊典乃（大阪市立大学・特任助教）
- ・ 黒澤 悠（京都精華大学・非常勤講師）
- ・ 石塚良次（専修大学・元教授）

2. 第2回 進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2018年8月26日（土曜日）13:00～17:30

場所：京都大学大学院経済学研究科・第1セミナー室

テーマ：「左派の政治経済学」

プログラム：

- ・ 13:00-13:40 第一報告：Jun-ho, YANG（韓国・国立仁川大学，教授）
“The Community Development Financial Institutions Fund in America”
— コメンテーター：小川一仁（関西大学，教授）
- ・ 13:40-14:20 第二報告：北川亘太（関西大学，准教授）
「企画業務を参与観察して見えてきたこと」
— コメンテーター：山本泰三（四国学院大学・特任講師）
- ・ 14:20-15:00 第三報告：巖成男（立教大学，教授）
「中国における内需主導型成長体制への転換と社会保障制度」
— コメンテーター：村越一夫（駐日英国大使館・上席経済アドバイザー）
- ・ 15:00-15:30 休憩
- ・ 15:30-16:10 第四報告：福田順（同志社大学，特任講師）

「異端派経済学の枠組みを用いた「逆所得政策」の検討（仮）」

ーコメンテーター：嶋野智仁（松山大学，准教授）

・16：10-16：50 第五報告：小川一仁（関西大学，教授）

“Higher cognitive ability promotes cooperation in the in finitely repeated PD but not in the finitely repeated PD: Experimental evidence”

ーコメンテーター：Jun-ho, YANG（韓国・仁川大学，教授）

・16：50-17：30 全体ディスカッション

3. 第3回 進化経済学会・「制度と統治」部会

日時：2018年10月22日（月曜日）13:00～17：00

場所：阪南大学あべのハルカスキャンパス・第1セミナー室

テーマ：「コンヴェンション理論と労働市場分析」

プログラム：

・13：00-14：30 報告：Guillemette de Larquier（ギエメット・ドゥラルキエ）

“Are conventions solutions to uncertainty? An introduction to Economics of convention”

・14：30-15：00 休憩

・15：00-17：00 質疑応答とディスカッション

文責：巖成男（立教大学・部会事務局）

■「観光学研究部会」部会報告

2018年度 観光学研究部会では以下の活動を行った。

第35回研究会

日付：2018年7月14日（土）

場所：大阪市立青少年センター KOKOPLAZA

講演1 丸井和彦氏（地域計画建築研究所）「北朝鮮観光の現在」

講演2 【招待講演】吉村旭輝氏（和歌山大学）「祭礼と祭りの「保存」と「活用（観光化）」—都市祭礼と農漁村祭祀の現在—」

第36回研究会

日付：2018年12月8日（土）

場所：オフィスS・L・K

【招待講演】藤生慎氏（金沢大学）「北陸地方のインフラの実態と災害への備え～どこの何をどうみるか？～」

第37回研究会

日付：2019年3月17日（日）

場所：サロット会議室

【特別講演】大森雅弥氏氏（中日新聞社）「周縁か中心かー中日新聞（の一記者）から見た北陸」

第 38 回研究会

日付：2019 年 3 月 23 日（土）

場所：金沢和室スペース

特別講演：金田直樹氏（北陸農政局）「北陸の農業について」

※このうち第 36 回から第 38 回研究会はサントリー文化財団の助成を受けている。

文責：井出明（金沢大学）

■「北海道・東北部会」部会報告

進化経済学会北海道・東北部会は 2018 年度，以下の活動を行いましたのでご報告申し上げます。2019 年 3 月 3 日の日曜日，小樽商科大学札幌サテライトにて，進化経済学会北海道，東北部会が開催されました。

プログラム

開会挨拶 吉地 望 北海道武蔵女子短期大学 北海道東北部会代表

第 1 報告 宮崎 義久 仙台高等専門学校

「北海道小樽市における電子地域通貨の社会実験ー域内経済循環の構築に向けた現状と課題」

第 2 報告 小林 重人 北陸先端科学技術大学院大学

「実験室実験に向けた QR コードを用いた電子地域通貨の開発」

第 3 報告 小池（相原）晴伴 酪農学園大学

「日本の米市場における数量調整と価格調整」

第 1 報告では，仙台高専の宮崎会員から，小樽における地域通貨の取り組みに関する報告を，第 2 報告では北陸先端科技大の小林会員から，地域通貨実験の実践における技術的可能性をご報告いただきました。さらに第 3 報告の酪農学園大，小池会員からは，農協と自由市場という二重構造を考慮することにより，コメ市場における価格調整，数量調整がどのように行われるかについての試案について，ご報告を頂きました。内容は多様ではありましたが，質疑も活発に行われ，部会は盛況のうちに閉会いたしました。

文責：小林大州介（北海道大学・研究員）

進化経済学会仙台大会（東北大学）・オータムコンファレンスのご案内

産業革命期の蒸気機関は工場制機械工業を生み出し、様々な産業の飛躍的な発展を可能にしただけでなく、当時の人々の意識・生活、社会構造や制度にも大きな変革をもたらしました。技術は常に変化していますが、新しい技術が人々の意識や社会構造・制度にまで大きな影響を及ぼすことは頻繁に生じることはありません。

われわれは今まさにそういう状況に直面しているという指摘が多方面からなされています。資本主義の高度化が進んでいると考える「第4次産業革命」論や資本主義が新たな段階に入ったという「ソサエティ 5.0」論などがその代表です。いずれの議論もデジタル化のインパクトを強調しています。

デジタル化がもたらす様々な効果・可能性が既に指摘されています。デジタル化が推し進められた生産現場では効率性が飛躍的に向上し、ビジネスの仕方自体を大きく変化させることでしょう。また、貨幣のデジタル化は決済機能の効率性を劇的に向上させますが金融政策による市場のコントロールラビリティを弱めるという可能性も指摘されています。デジタル化はシェアリングエコノミーをもたらし、消費者余剰を拡大させる一方で投資を抑制する効果を有することも指摘されています。

デジタル化の効果には歓迎すべきものとそうではないものがあります。今後デジタル化が推し進められる中で、資本主義社会はどのように進化していくのでしょうか？2019年度のオータムコンファレンスでは、このことをテーマとして様々な視角から議論を深めたいと思います。

2019年度のオータムコンファレンスは仙台ではなく進化経済学会が協賛している「第5回貨幣革新・地域通貨国際会議飛騨高山大会（RAMICS 2019）」と同じ高山で開催します。詳細は追ってお知らせいたします。会場は世界遺産「白川郷」へのアクセスに便利な場所です。多くの会員のご参加をお待ちしております。RAMICSの参加者も高山駅周辺に宿泊されると予想されますので早めに投宿先を確保して下さいますようお願い申し上げます。

日時：2019年9月12日（木）

場所：高山市民文化会館（岐阜県高山市昭和町1-118-1）

仙台大会実行委員会：黒瀬一弘（東北大学）、宮崎義久（仙台高等専門学校）、本吉祥子（東北学院大学・非常勤講師）

オータムコンファレンス

日時：2019年9月12日

会場：高山市民文化会館（岐阜県高山市昭和町1-118-1）

年次大会「デジタル化がもたらす資本主義経済社会の進化」

日時：2020年3月28～29日

会場：東北大学川内キャンパス

会員異動

1. 退会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
岸田 民樹	Kishida	Tamiki	中京大学経営情報学部	個人会員
大岩 雄次郎	Oiwa	Yujiro	東京国際大学経営学部	個人会員
久保 由加里	Kubo	Yukari	大阪国際大学国際教養学部国際観光学科	個人会員
岩尾 俊兵	Iwao	Shunpei		個人会員

2. 2018年度末退会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
石塚 史樹	Ishizuka	Fumiki	西南学院大学 経済学部 国際経済学科	個人会員
李 征	Li	Zhen	株式会社クレアン	学生会員

3. 前回入会承認者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別	推薦会員
外栢保 大介	Sotohebo	Daisuke	下関市立大学 経済学部	個人会員	井出 明先生 深見 聡先生
赤池 敬	Akaike	Takashi	北陸先端科学技術 大学院大学	学生会員	吉田 昌幸先生 小林 重人先生
イリナ グリゴロビチ	Grigorovici	Irina	九州大学大学院	学生会員	磯谷 明德先生 王 佳先生
Le LI	Le	Li	中央大学 企業研究所	個人会員	荒川 章義先生 有賀 裕二先生

4. 入会希望者

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別	推薦会員
古川 純子	Furukawa	Junko	聖心女子大学	個人会員	有賀 裕二先生 荒川 章義先生
張 玥	Zhang	Yue	北陸先端科学技術大 学院大学	学生会員	橋本 敬先生 小林 重人先生
Franklin Obeng Odoom			The University of Helsinki, FINLAND	個人会員	八木 紀一郎先生 荒川 章義先生
上岡 拓矢	Ueoka	Takuya	群馬大学	学生会員	水野 貴之先生 大西 立顕先生
川畑 康子	Kawahata	Yasuko	群馬大学	個人会員	水野 貴之先生 大西 立顕先生

5. 休会

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
後藤 和子	Goto	Kazuko	埼玉大学経済学部	個人会員
川口 正樹	Kawaguchi	Masaki	外務省アジア局東南アジア第一課	個人会員
徐 龍燮	Seo	Yong-Sub	(元) 京都大学大学院経済学研究科	学生会員
橋本 千津子	Hashimoto	Chizuko	北海道大学大学院経済学研究科	学生会員
平野 耕一	Hirano	Koichi	リバプール大学	学生会員
中嶋 眞澄	Nakajima	Masumi	鹿児島国際大学経済学部	個人会員
石田 聡子	Ishida	Satoko	岡山大学大学院社会文化科学研究科	個人会員

6. 宛先不明

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
高藪 学	Takayabu	Satoru	東京学芸大学人文社会科学系	個人会員
Alonso Moreno Oscar Miguel	Alonso Moreno	Oscar Miguel	東京工業大学大学院総合理工学研究科	学生会員
大熊 匠美	Ohkuma	Takumi	中央大学大学院経済学研究科	学生会員
佐藤 了	Sato	Ryo	The Node Consulting 株式会社	個人会員
韓 丹	Han	Tan	名古屋大学経済学研究科	学生会員

7. 種別変更

会員名	フリガナ		所属一機関名	変更内容
池田 雄二	Ikeda	Yuji	阪南大学	終身会員→正会員
栗田 健一	Kurita	Kenichi		学生→個人会員
持元 江津子	Yoshimoto	Etsuko		学生→個人会員

8. 復会希望

会員名	フリガナ		所属一機関名	会員種別
笠松 學	Kasamatsu	Manabu	早稲田大学政経学部	個人会員

編集後記

初夏の候、会員の皆様に進化経済学会ニューズレターNo.46をお届けいたします。令和の時代として、記念すべき第一号にあたります。編集にあたって報告資料をご作成いただいた皆様に感謝申し上げます。また、ニューズレターで学会の消息をお伝えできるのも、会員の皆様の日ごろからの学会運営、研究活動のおかげさまでございます。ここにお礼申し上げます。

さて、会員の多くの皆様は大学等、高等研究機関に勤務されていると思います、そこでの仕事は多岐にわたりますが、通常、研究、校務、そして教育に大別されます。とりわけ、研究と教育の活動は、学問の発展と次世代への継承という意味で本質的役割となります。

振り返ってみると、こんにち、これらを支え実現する技術発展の目覚ましさを改めて感じます。これにともなって進化経済学会のテーマの一つ、共進化を教育・研究上について考えることがあります。

伝統的な社会科学系の講義では（少なくとも私が大学生の頃は）、先生が板書をしながら、講義を展開し、学生は、それをノートにまとめるというスタイルが主流であったと思います（板書のない話に終始するというツワモノもいらっしゃいましたが、学生からの評価はたいがい悪かった。。。おっと、こういうのは今となっては時効のはなし）。授業の出席を確認するときも、いわゆる紙ベースの確認、あるいは点呼ベースのものもあったのではないのでしょうか。

今では、ICTの利用をはじめ、様々な教育のスタイルが可能な環境になっています。以前は自分でノートをとらなければ（あるいは誰かにノートを写させてもらわなければ）、講義内容を復習することができなかつた。しかし、いまでは教材に命をふき込み、オンライン化すれば、学生は講義内容をいつでも、どこでも復習することができます。出席確認だって、ウェブ登録が主流ではないでしょうか。

技術の発展は、われわれの生活だけでなく、研究、教育環境までも便利にしてくれました。教員も学生も、新しい研究・教育技術の恩恵を受けることができます。ただ、この技術の変化は極めて速く、使いこなすために学ぶことも大変です。いまのスタイルに、なかなか安逸ができない。世の中の技術と自分の技術の補完的な共進化とでもいいでしょうか、自らの研究技術、教育技術も不断に磨いていかなければならないと、意を新たにすところでは。

ニューズレター編集担当：西 洋（阪南大学）